

鹿児島

## 行政視察報告書

令和8年2月20日

長浜市議会議長 伊藤 喜久雄 様

長浜市議会議員

田中真浩

私が出席した次の行政視察の結果について報告します。

### 記

- 1・視察等名 新しい風 会派視察研修
- 2・視察期間 令和8年2月16日(月)～2月18日(水)
- 3・視察場所及び目的  
鹿児島県鹿児島市  
① 鹿児島市南部清掃工場  
② 鹿児島市立天文館図書館  
鹿児島県南九州市  
③ 知覧武家屋敷管理組合  
④ 九州電力山川発電所展示室  
⑤ 知覧特攻平和会館

### 調査内容感想等

#### 1日目

#### 視察の目的

- ① 鹿児島市南部清掃工場

一般廃棄物処理施設の運営状況及び環境対策、資源循環型社会への取組について学び長浜市における廃棄物行政及び清掃施設整備・運営の参考とすることを目的として、鹿児島市南部清掃工場を視察した。

特に、半導体関連産業の集積や交通アクセスの向上など、熊本市を取り巻く産業環境の変化を踏まえ、企業が立地先を選定する際の重要事項として以下の点が説明された。

#### 研修内容

##### (1) 施設概要

焼却処理能力及び処理方式

ごみ搬入から焼却までの工程

排ガス処理設備及び公害防止対策

災害時対応機能

##### (2) 環境対策について

ダイオキシン類対策

排ガス及び排水管理

臭気・騒音対策

環境モニタリング体制

**(3) 資源循環への取組**

焼却熱を活用した発電設備

余熱利用によるエネルギー活用

資源化推進及び最終処分量削減

分別収集との連携

**(4) 施設運営及び維持管理**

長寿命化対策

維持管理コスト削減

民間事業者との連携

安全管理体制

**研修で得られた知見・所感**

長浜に限らず多くの自治体にごみの清掃工場があるが南部清掃工場の特筆すべきところはバイオガス施設・高効率発電施設を運営していることで、安定した発電ができるように廃棄物処理施設においては、安定処理と環境保全対策を両立させる高度な運営管理がなされるよう腐心されていた。

焼却熱発電などエネルギー回収を積極的に行うことで、循環型社会形成及び脱炭素化に寄与している点が参考となった。

また、ダイオキシン、粉塵、臭気等の公害についても慎重で、地域住民への情報公開及び環境データの継続的な公表が積極的になされ、施設運営への信頼確保につながっている。

設備更新や長寿命化を計画的に実施することで、財政負担の平準化を図っていた。

**今後の活用・対応方針**

南部清掃工場に比べ長浜市のごみ処理場はバイオガスや焼却熱の再利用がなされていないし公害へのモニタリングには頓着しないように思える。が大きな資本を出して発電など考える必要はない気もする。再生可能エネルギーなどを推進するより。森を守ることのほうに予算をつけたほうが良いと考える

環境負荷低減及びエネルギー有効活用の取組を推進する。

廃棄物処理施設に対する市民理解促進のため、情報発信の充実を図る。

**② 鹿児島市立天文館図書館**

天文館図書館は、商業施設内に整備された都市型図書館であり、市民の生涯学習支援や交流拠点として運営されている。

## 鹿児島

従来型の静的な図書館機能に加え、カフェ併設やイベント開催など、多世代が滞在しやすい空間づくりが特徴である。

また、交通アクセスに優れた中心市街地に立地しており、買い物客や学生、観光客など幅広い利用者層の来館が見られた。

### 施設・空間設計について

開放感のある閲覧空間を確保

学習スペースと交流スペースを用途別に配置

木材を活用した温かみのある内装

Wi-Fiや電源設備などICT環境が充実

特に、利用者が長時間滞在しやすい環境整備が図られており、「読む場所」だけでなく「過ごす場所」としての機能を果たしていた。

司書によるレファレンスサービス

電子書籍サービスの導入

地域イベント・講座の実施

子育て世代向けサービスの充実

館内では利用者への案内が分かりやすく、職員対応も丁寧であった。

また、地域住民参加型のイベントを積極的に開催しており、図書館を核とした地域コミュニティ形成が推進されていた。

### 利用状況について

学生・社会人・高齢者など幅広い世代が利用

平日昼間でも一定の来館者数を確保

学習利用・読書利用・待ち合わせ利用など用途が多様

中心市街地という立地条件を活かし、従来の図書館以上に「日常的に立ち寄る公共空間」として機能している印象を受けた。

### 所感・考察

今回の視察を通じ、図書館には単なる蔵書機能だけでなく、「居場所づくり」や「交流促進」の役割が求められていることを改めて認識した。おしゃれな図書館だがそれほど目新しいものでもない。長浜にどうしても欲しいかと考えればそれほど優先させるものではないような気はする。

民間施設との複合化による集客力向上

滞在型空間の整備

ICT活用による利便性向上

## 多世代交流を意識した運営

今後、自治体の図書館運営を検討する上でも、中心市街地活性化や地域交流拠点としての図書館機能を取り入れる必要性を感じた。

## 2日目

### ③ 知覧武家屋敷管理組合

#### 2. 施設概要

知覧武家屋敷は、江戸時代の薩摩藩の武家集落の面影を今に残す歴史的地区であり、国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されている。

石垣や生垣、庭園などが良好に保存されており、「薩摩の小京都」とも称される歴史的景観を形成している。

現在は観光資源として活用されるとともに、地域住民による保存活動が継続的に行われている。

#### 3. 研修内容

##### (1) 歴史的景観の保存について

武家屋敷群の街並み保存

石垣・生垣等の維持管理

景観条例に基づく修景

地域住民との協働による保全活動

建築物単体ではなく、街並み全体として歴史的価値を維持している点が特徴的であった。

また、統一感のある景観形成により、地域の魅力向上につながっていた。

##### (2) 観光振興への活用について

武家屋敷庭園の一般公開

観光案内機能の整備

地域特産品との連携

歴史文化を活用した観光施策

国内外から多くの観光客が訪れており、地域経済への波及効果も大きいと感じた。

特に、歴史文化資源を単なる保存に留めず、観光振興へ効果的に活用している点が参考となった。

##### (3) 地域との連携について

地域住民による環境美化活動  
伝統文化継承への取組  
行政と住民の協力体制  
次世代への歴史教育

地域全体で文化財を守る意識が高く、住民主体のまちづくりが実践されていた。

#### 4. 所感・考察

今回の研修を通じ、歴史的資源の保存には行政だけでなく地域住民との協働が不可欠であることを学んだ。

特に以下の点は参考となった。

景観全体を守る統一的な取組  
歴史資源を活かした観光振興  
地域住民主体の保存活動  
文化財保護と地域経済活性化の両立

また、歴史的景観は地域独自の魅力形成につながる重要な資源であり、地域ブランド向上にも大きく寄与していると感じた。

この日天気も良く、2月だのに比較的暖かかったため行楽客も何人かいたのだが観光ガイドに歴史のことや門の形その云われの説明を聞きながらの見学はただ歩くだけとは別物となる。長浜市は歴史が豊富であるため観光ガイドの養成が必要だと感じた。

#### ④ 九州電力山川発電所展示室

##### 2. 施設概要

山川発電所は、地下の地熱エネルギーを利用して発電を行う地熱発電所であり、再生可能エネルギー活用の重要施設として運営されている。

地域特有の豊富な地熱資源を活用し、安定した電力供給を行うとともに、二酸化炭素排出量削減にも寄与している。

また、純国産エネルギーである地熱を利用することで、エネルギー自給率向上にも貢献している。

##### 3. 視察内容

###### (1) 地熱発電の仕組みについて

地下深部の蒸気・熱水を活用

## 鹿児島

蒸気によりタービンを回転させ発電

使用後の熱水を地下へ還元

安定したベースロード電源として活用

視察では、地熱資源の採取から発電までの流れについて説明を受けた。

天候に左右されにくく、安定的な発電が可能である点が特徴であった。

### (2) 環境対策について

地下還元による資源循環

排出ガス抑制への取組

周辺自然環境への配慮

騒音・景観対策の実施

再生可能エネルギーでありながら、周辺環境との調和を重視した運営が行われていた。

特に、地域住民への配慮や安全管理体制について丁寧な説明がなされていた。

### (3) 地域との連携について

地域理解促進活動

学校・団体向け見学受入れ

地域経済への貢献

再生可能エネルギー普及啓発

地域との共生を意識した運営がなされており、エネルギー教育の場としても活用されていた。

## 4. 所感・考察

今回の視察を通じ、地熱発電は再生可能エネルギーの中でも安定供給が可能な重要電源であることを学んだ。

特に以下の点が参考となった。

地域資源を活用した発電方式

環境負荷低減への取組

エネルギー自給率向上への貢献

地域住民との共生を重視した運営

また、脱炭素社会の実現に向けて、地域特性を活かした再生可能エネルギー活用の重要性を改めて認識した。

## 5. 今後の活用について

## 鹿児島

本視察で得た知見を踏まえ、今後は以下の事項について検討を進めたい。

再生可能エネルギー導入促進  
環境負荷低減施策の推進  
エネルギー教育の充実  
地域資源活用による地域振興  
脱炭素社会実現に向けた取組強化

3日目

### ⑤ 知覧特攻平和会館

#### 施設概要

知覧特攻平和公園は、第二次世界大戦末期に特攻隊の出撃基地が置かれていた歴史を後世へ伝えるため整備された平和学習施設である。

園内には知覧特攻平和会館が併設されており、特攻隊員の遺品、遺書、写真、関係資料等が展示されている。

戦争の悲惨さと平和の尊さを伝える施設として、多少肌寒かったがこの日も多くの来館者が訪れていた。

#### 視察内容

##### 展示資料について

特攻隊員の遺書・手紙  
写真及び関係資料展示  
戦闘機模型等の展示  
当時の歴史背景説明

展示内容は非常に丁寧に整理されており、若年層にも理解しやすい構成となっていた。

特に、隊員一人ひとりの人生や家族への思いが伝わる手紙や資料は強い印象を受けた。

##### 平和学習の取組について

修学旅行等の受入れ  
語り部活動  
平和教育プログラム  
戦争体験継承活動

単なる歴史展示に留まらず、「命の尊さ」や「平和の重要性」を学ぶ教育施設として活用されていた。

平和教育の場として全国的にも重要な役割を果たしていると感じた。

##### 施設運営・保存活動について

戦争資料の保存管理  
展示更新及び維持管理

来館者対応体制

地域と連携した平和継承活動

貴重な歴史資料を後世へ伝えるため、適切な保存管理が行われていた。  
また、地域全体で平和学習を支える体制づくりが進められていた。

所感・考察

今回の視察を通じ、先人がいかにして愛する人を、愛する日本を守ろうとしたのかが伝わってくる。現代を生きる我々が当たり前のように生活していることは決して当たり前ではなく国を守って戦ってくれた人の尊い犠牲の上に成り立っていることを改めて痛感した。江戸時代の始まりとともに日本は戦国時代を昇華卒業し民政を向上させることにまい進した。江戸時代は学問・文化とも世界トップクラスの水準に至っているし260年になんなんとするミラクルピースな時代を謳歌するに至った。しかし世界は戦国時代を卒業すること能わず、再び日本を戦争に駆り出す。日本は明治とともに文化レベルを下げざる得なかった野蛮にならざるえなかった。凶暴な野犬を言葉で諭すことは無意味で戦わざるを得なかった。でなければ他のアジアのように植民地にされ奴隷扱いされることは明白だったからだ。日本が二度と戦争を起こさないためにも正確で偽りのない歴史をしっかりと学ぶ必要があると感じた、戦後GHQによって行われたヨーギルトインフォメーションプログラムという洗脳政策に毒された偽りの歴史ではなく、日教組の自虐史観による偏向の歴史でもない、本当の歴史を知り日本の国体を知ることが本当の意味で戦争を回避する強い国を作れると思う。長浜も歴史教育を見直していくことが必要だと考える。